

生命科学研究科

I	研究水準		研究 14-2
II	質の向上度		研究 14-2

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、国際誌に発表された論文数は毎年 100 件以上あり、それらが引用される機会も多く、平成 16 年以降の論文で、10 回以上引用されたものが 130 件、20 回以上引用されたものが 61 件となっている。また、学会での発表、招待講演の件数も多く、活発に学問交流を行っている。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金、21 世紀 COE プログラム、政府系の外部競争的資金等を多く獲得しており、平成 16 年度以降、外部資金の合計額は 9 億 4,300 万円から 14 億 7,700 万円であり、活発な研究活動が行われていることなどは、優れた成果である。

以上の点について、生命科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、生命科学研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、高度化、複雑化する生命科学分野に対する社会の多様な要請に対応するため、多岐な分野で優れた研究成果が多い。卓越した研究成果として、例えば、分裂酵母のプロテアソームの核局在が M 期の進行並びに間期の DNA ダメージに対する応答において重要であることを解明した研究があり、Cell 誌に掲載されるなど、国際的な評価が高い。社会、経済、文化面では、薬物中毒や癌疾患の治療へ応用できる研究が注目されることなどは、優れた成果である。

以上の点について、生命科学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、生命科学研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は2件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。